

在日朝鮮人運動史研究会監修

在日朝鮮人 資料叢書

第二回配本

(叢書3)

▼戦後初期の在日朝鮮人社会の構造を理解する上で不可欠の基本資料！

戦後在日朝鮮人人口調査資料集 初期

長澤秀編

全2巻

◆本叢書は今日まで蓄積してきた在日朝鮮人・韓国人に関する史料・記録・研究の成果と発掘をふまえて、広く在日朝鮮人・韓国人の問題に関心をもつ人々に活用され、一層の理解・認識を深めることができるように、在日朝鮮人運動史研究会の会員により多様な資料を提供することを意図して企画した。

◆「韓国併合」一〇〇年にあたり、真の日本と韓国・朝鮮の友好交流を築いていくためにも、改めて資料で在日朝鮮人・韓国人の歴史を振り返ることの意義は大きいものと考える。

緑蔭書房

長澤 秀
(在日朝鮮人運動史研究会會員)

①は全国四六都道府県別、二〇七市・五五〇郡別、男女別、年齢別の詳細なデータである。帰還途上で西日本各地の港湾に滞留したり、GHQによる計画輸送が遅れていた東日本、北日本各地の被徴用朝鮮人も捕捉し、反映されていると思われる。一歳刻みの年齢別統計は、家族構成を知る上でも貴重である。併せて在日台湾人の状況も詳細に示されている。戦後初の人口調査という点でも貴重である。

②は全国四六都道府県別、一万五〇〇余町村別、男女別の詳細なデータである。当時の朝鮮人集住地域が浮き彫りになり、併せて在日台湾人・中華民国人、その他の状況も分かる戦後初の国勢調査である。

(797枚,内 11號)

張		夕		道		北		人	
合		計		男		女		合	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170
171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190
191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210
211	212	213	214	215	216	217	218	219	220
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230
231	232	233	234	235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246	247	248	249	250
251	252	253	254	255	256	257	258	259	260
261	262	263	264	265	266	267	268	269	270
271	272	273	274	275	276	277	278	279	280
281	282	283	284	285	286	287	288	289	290
291	292	293	294	295	296	297	298	299	300
301	302	303	304	305	306	307	308	309	310
311	312	313	314	315	316	317	318	319	320
321	322	323	324	325	326	327	328	329	330
331	332	333	334	335	336	337	338	339	340
341	342	343	344	345	346	347	348	349	350
351	352	353	354	355	356	357	358	359	360
361	362	363	364	365	366	367	368	369	370
371	372	373	374	375	376	377	378	379	380
381	382	383	384	385	386	387	388	389	390
391	392	393	394	395	396	397	398	399	400
401	402	403	404	405	406	407	408	409	410
411	412								

●『昭和二〇年人口調査』(一九四五年一月一日現在)は敗戦後初めて実施した在日朝鮮人人口調査の原表。

●『昭和三二年臨時国勢調査』(一九四七年一〇月一日現在)は、敗戦後最初の国勢調査である。

- 朝鮮への帰還希望者の大半が帰還し、その結果、定住希望の強い朝鮮人が計上されることになり、戦後の朝鮮人社会の原点となった人々の人数と分布を示す。
- 二つの調査を比較することで、戦後初期の在日朝鮮人の集住地域と人口の急激な変動が分かる。

●二〇年は内閣統計局、二二年は総理府統計局による調査

昭和十二年十一月一日

人 口 調 査 申 告 書

男 子 欄 は 市 區 町 村 長 に 於 て 記 入 す る こ と
 女 子 欄 は 入 口 調 査 員 に 於 て 記 入 す る こ と

氏 名	(4) 男	(3) 氏 名	(2) 住 所	(1) 本 籍 地	市 區 町 村 番 號 表
甲 子 名	別 女	名	府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區 番 號
印 捺	女		府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區 番 號
中 寄 書 内 容	(5) 年 令 數 (年)		府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區 番 號
校 合 調 査 員 検 印	歳		府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區	府 都 市 町 村 區 番 號

と ころ と ② は 女、③ は 男 に 入 記 の 欄 別 の 女 男 〇

内 閣 統 計 司

[illegible]

第五表 朝鮮人

年(数)	朝鮮人	合計	男	女
1	42	23	12	11
2	46	41	16	25
3	52	46	22	24
4	52	51	16	35
5	46	41	16	25
6	36	31	11	20
7	36	31	11	20
8	36	31	11	20
9	24	29	7	22
10	36	31	11	20
11	24	29	7	22
12	24	29	7	22
13	24	29	7	22
14	24	29	7	22
15	12	12	3	9
16	12	12	3	9
17	12	12	3	9
18	12	12	3	9
19	12	12	3	9
20	12	12	3	9
21	12	12	3	9
22	12	12	3	9
23	12	12	3	9
24	12	12	3	9
25	12	12	3	9
26	12	12	3	9
27	12	12	3	9
28	12	12	3	9
29	12	12	3	9
30	12	12	3	9
31	12	12	3	9
32	12	12	3	9
33	12	12	3	9
34	12	12	3	9
35	12	12	3	9
36	12	12	3	9
37	12	12	3	9
38	12	12	3	9
39	12	12	3	9
40	12	12	3	9
41	12	12	3	9
42	12	12	3	9
43	12	12	3	9
44	12	12	3	9
45	12	12	3	9
46	12	12	3	9
47	12	12	3	9
48	12	12	3	9
49	12	12	3	9
50	12	12	3	9
51	12	12	3	9
52	12	12	3	9
53	12	12	3	9
54	12	12	3	9
55	12	12	3	9
56	12	12	3	9
57	12	12	3	9
58	12	12	3	9

在日朝鮮人の諸相が読める貴重な資料

小林 知子 (福岡教育大学国際共生教育講座・教授)

在日朝鮮人の歴史や生活について考えるとき、それがいつの時期の、どんなテーマであったとしても、知っておくべきことのひとつは、在日朝鮮人の人口をめぐる状況である。日本の、あるいは当該地域の在日朝鮮人人口はどのくらいで、男女比や年齢構成はどうなっているのだろうか。そして、これらはどのように推移しながら、現在に至るのだろうか。本書に収録された『昭和二十年人口調査』及び『昭和二十二年臨時国勢調査』の抜粋資料は、日本の敗戦・朝鮮の解放を契機とした在日朝鮮人の状況を明示する、大変重要な基礎的データである。本資料は、一九四五年の戦争末期の時点で、二〇〇万人を越える人口(この数は現在の在日外国人総数にほぼ匹敵する)を数えた在日朝鮮人が、終戦直後の情勢変化のなかで、どのように行動したのかを考えるうえで、数少ない貴重な資料であることは言うまでもない。また、何よりも、この激動の時代の在日朝鮮人の在住状況を把握してこそ、戦前までして現在に至るまでの、日本社会・朝鮮半島と在日朝鮮人との関係を、より構造的に認識することができるのである。

とくに、本書に収録された資料によって、在日朝鮮人の人数や男女比年齢分布が、市郡レベル状況まで把握できることは、注目に値する。これまでも、これら資料の存在は、森田芳夫氏や金英達氏らによる研究で紹介・利用されてきたものの、実際には、せいぜい都道府県レベルでしか使われてこなかった。今回、この大部な資料が、戦時動員研究の第一人者である長澤秀氏の解説とともに、活用しやすいコンパクトな形になることを知り、おおいに期待している。さらに、本資料では、台湾人やその他外国人の在住状況も把握できる。本書は、在日朝鮮人史研究者はもちろんだが、ひろく、地域社会と外国人との関係について関心を持つ人みなにとって、必携の資料であるといえるだろう。

昭和22年臨時国勢調査
第10表 出身地域及び国籍男女別人口

北 海 道			(10枚の内 1 号)														
市 区 町 村			総 数			日 本 人			朝鮮 人			中 華 民 国 人			其の他の外国人		
			総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
北 海 道			38,526	17,348	17,171	38,661	17,297	17,168	57,250	4,154	1,976	357	238	127	103	48	55
札幌市	札幌市		2,226	1,234	1,134	2,271	1,113	1,134	424	260	64	23	10	13	42	21	21
旭川市	旭川市		1,075	588	588	1,075	588	588	320	278	65	5	3	18	5	4	5
小樽市	小樽市		1,687	806	806	1,687	806	806	176	133	43	9	7	12	11	5	6
室蘭市	室蘭市		2,118	1,138	1,076	2,140	1,093	1,076	460	338	122	16	10	27	17	2	18
釧路市	釧路市		2,622	1,288	1,288	2,622	1,288	1,288	177	128	49	15	7	8			
帯広市	帯広市		1,682	806	806	1,682	806	806	94	77	17	10	7	3	1	1	
富良野市	富良野市		4,622	2,282	2,282	4,622	2,282	2,279	126	77	49	18	12	3			
夕張市	夕張市		4,022	2,082	2,082	4,022	2,082	2,082	123	94	29				2	1	1
岩手県	岩手県		2,122	1,082	1,082	2,122	1,082	1,082	86	61	25				5	3	2
山形県	山形県		4,577	2,122	2,122	4,577	2,122	2,122	80	53	27	2	2		3	2	1
福井県	福井県		1,614	806	806	1,614	806	806	108	76	32						
石川県	石川県		2,027	1,027	1,027	2,027	1,027	1,027	16	15	1				1	1	
富山県	富山県		1,867	967	967	1,867	967	967	210	185	25		1	1	4		4
金沢市	金沢市		4,226	2,026	2,026	4,226	2,026	2,026	90	87	3						
石川市	石川市		4,471	2,204	2,204	4,471	2,204	2,204									
福井市	福井市		1,622	806	806	1,622	806	806	2	2							
手取市	手取市		1,074	588	588	1,074	588	588	7	3	4						
白川市	白川市		2,622	1,288	1,288	2,622	1,288	1,288	5	3	2		1				
石川市	石川市		1,627	806	806	1,627	806	806	170	120	50						
魚住市	魚住市		6,119	3,078	3,078	6,119	3,078	3,078									
石川市	石川市		2,878	1,438	1,438	2,878	1,438	1,438	88	43	45						
新 潟 県	新 潟 県		8,722	4,350	4,350	8,722	4,350	4,350									
新潟市	新潟市		1,622	806	806	1,622	806	806	18	15	3						
厚田市	厚田市		3,161	1,604	1,604	3,161	1,604	1,604									
尾花市	尾花市		6,331	3,123	3,123	6,331	3,123	3,123									
花巻市	花巻市		2,246	1,123	1,123	2,246	1,123	1,123	2	2							
鹿角市	鹿角市		1,222	611	611	1,222	611	611	23	13	10						
大館市	大館市		1,816	908	908	1,816	908	908	7	7							
知事官庁	知事官庁		5,877	2,938	2,938	5,877	2,938	2,938	723	279	444	12	6	6	5	5	5

でいずれも精度が高い。
● 在日朝鮮人以外に、在日台湾人・中華民国人の詳細で貴重な統計を掲載。

在日朝鮮人資料叢書3

◆平成23年11月刊行！

長澤秀編

戦後在日朝鮮人人口調査資料集 全2巻

戦後の朝鮮人集住地域に関する詳細なデータを提供。統計局の報告書としては未刊行の資料である。

▼第1巻Ⅱ内閣統計局編『昭和二十年人口調査・第五表「朝鮮人・台湾人ノ男女及年齢ニ依リ分チタル人口数ノ表」』 ▼第2巻Ⅱ総理庁統計局編『昭和二十二年臨時国勢調査・第十表「出身地域及び国籍男女別人口」』

◆定価Ⅱ本体39000円(A5判・上製・ケース入り) ISBN978-4-89774-138-3

在日朝鮮人資料叢書1

在日朝鮮人運動史研究会編

在日朝鮮人史資料集 全2巻

「在日朝鮮人史研究」収録の附属資料を再編集し、通覧できるようにした。他の史料集では見ることの出来ない在日朝鮮人・韓国人に関する資料を多数収録。

◆定価Ⅱ本体24000円(A5判・上製・ケース入り) ISBN978-4-89774-134-5

在日朝鮮人資料叢書2

在日本朝鮮人商工連合会編 樋口雄一解説

在日本朝鮮人商工便覧 1957年版

戦後初めての本格的な在日朝鮮人の商工業実態に関する全国的調査資料。なお、在日本朝鮮人商工連合会編『調査月報』の附属資料を付す。

◆定価Ⅱ本体9000円(A5判・上製・ケース入り) ISBN978-4-89774-135-2

▼以下続刊予定(順不同、タイトルはすべて仮題)

- | | | |
|----|----------------|--------|
| 4 | 在日朝鮮人「帰還」資料 | 鈴木久美編 |
| 5 | 在日朝鮮人留学生資料 | 裴始美編 |
| 6 | 在日朝鮮人生活保護資料 | 金耿昊編 |
| 7 | 日本在留朝鮮人の出版物 | 小野容照編 |
| 8 | 解放後在日朝鮮人文化運動資料 | 宇野田尚哉編 |
| 9 | 朝鮮人強制動員資料 | 山田昭次編 |
| 10 | 在日朝鮮人状況資料 | 福井讓編 |
| 11 | 在日朝鮮人の教育 | 佐野通夫編 |
| 12 | 戦前期在日朝鮮人特集記事集 | 外村大編 |

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1

☎ 03 (3579) 5444

[消費税が別途加算されます]

取扱書店